

取組概要

- 感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成する際に、「性別に配慮し、男女2人体制で職員を配置する」との文言を追加
- 防災部署に配置された女性職員の意見を取り入れ、多様な視点を反映させた備蓄物資へと変化

取組のきっかけ 『災害対応に女性が参画することを当たり前にしたい！』

以前から、部署によって男女の配置に差があることは暗黙の了解で、防災部署には女性職員が一人もいなかった……



防災部署に初めて女性職員が配置された。これまで男性職員しかいなかった部署へ異動した女性職員の不安を解消するために、部署内でバックアップ。

新型コロナウイルス感染症を機に、感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成したタイミングで、健康管理に関する専門知識を持つ保健師が避難所の運営に参画(保健師の9割が女性)。

避難所運営や備蓄などに関する意見など、女性の視点を取り入れた防災・災害対応を目指そう！

福岡県
桂川町 総務課

電話:0948-65-1100
http://www.town.keisen.fukuoka.jp/profile/section_soumu.php



桂川町HP▶

38

事例15 「防災部署に初めて女性職員が配置されたことをきっかけに、防災に多様な職員の意見を反映！」福岡県桂川町

【取組概要】

- 感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成する際に、「性別に配慮し、男女2人体制で職員を配置する」との文言を追加しました。
- 防災部署に配置された女性職員の意見を取り入れ、多様な視点を反映させた備蓄物資へと変化しました。

【取組のきっかけ】

- 以前から男性しか配置されない部署があるなど、部署によって男女の配置に差があることは暗黙の了解があり、防災部署には女性職員が一人もいませんでした。当時、議会でも性別による昇給の違いや、係長職の女性割合などに関する話題が取り上げられていました。
- 平成31年度に、防災を担当する総務課に初めて女性職員が配置されました。これまで男性職員しかいなかった部署へ異動した女性職員は、半年後に産休に入る予定であり、「災害対応は体力勝負なところがあるため、出産後に復帰して、自分に対応できるのか」といった不安を抱えていました。この女性職員の不安を解消するため、部署内でバックアップしました。
- コロナウイルス感染症を機に、令和3年度に感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルを作成したタイミングで、健康管理に関する専門知識を持つ保健師を避難所の運営に配置することが決まりました。桂川町の保健師は、全体の9割が女性であるため、ほとんどの避難所に女性職員が配置されることになり、男性職員と女性職員のペアで避難所運営に取り組むことが通例となりました。
- 防災の現場への女性の参画を促進することで、避難所運営や備蓄などに関する意見など、女性の視点を取り入れた防災・災害対応を目指しています。

1 避難者の体調管理をきっかけに、避難所への女性職員配置を当たり前に！

避難所運営マニュアルの修正

- 1 西日本豪雨(平成30年7月豪雨)時に、人手不足から男性職員だけでは避難所運営を担いきれず、**女性職員も避難所への誘導等の災害対応に加わった**

こんないいことがあった！



これまでは男性職員のみで取り組んできた**災害対応、避難所運営**に女性職員が参画するきっかけになった！



- 2 コロナウイルス感染症防止対策に伴い、避難者の体調を管理するため、**避難所に保健師を派遣**するようマニュアルを改訂した
 マニュアル改訂の際に、「**性別に配慮して、男女2人体制で職員を配置する**」といった文言を追加した

こんないいことがあった！



女性職員も災害対応に取り組むことが制度化されたことで、**性別問わず対応することが当たり前**であるという意識に変化した



実際の避難所運営

- 3 避難所に女性職員が配置され、避難者に声掛けをして相談しやすくなるように気を配り、**避難者が過ごしやすい避難所の環境づくり**につながった

こんないいことがあった！



より避難者に**寄り添った対応**ができるようになった！
避難者からお礼の手紙をいただくことが増えた！

男性職員の対応の仕方にも変化が！



39

①避難者の体調管理をきっかけに、避難所への女性職員配置を当たり前に！

<避難所運営マニュアルの修正>

1. 平成20年頃までは町役場全体の男性職員の割合が多く、災害対応のほとんどは男性職員が取り組むことになっていました。しかし、西日本豪雨(平成30年7月豪雨)が発生した際には人手が不足しており、男性職員だけで避難所運営を担うことができず、女性職員が避難所への誘導等の役割を担いました。この時に女性職員が災害対応に加わったことが、これまで男性職員のみで取り組んできた災害対応や避難所運営に女性職員が参画するきっかけになりました。
2. 西日本豪雨(平成30年7月豪雨)の翌年にコロナウイルス感染症が流行したため、感染症対策を強化するために避難所運営マニュアルを改訂しました。改定後のマニュアルでは、避難者の体調を管理するために各避難所に保健師を派遣するように修正し、さらには「性別に配慮して、男女2人体制で職員を配置する」といった文言を追加しました。町内の保健師は女性が多く、結果的に男性職員と女性職員のペアで避難所運営を行うことになったことに加え、女性職員も災害対応に取り組むことが制度化されたことにより、庁内全体が、性別を問わずに災害対応にあたるのが当たり前であるといった意識に変化しました。

<実際の避難所運営>

3. 避難所に女性職員が配置されるようになり、避難者に声掛けをして相談しやすくなるように気を配り、避難者が過ごしやすい避難所の環境づくりにつながりました。避難者からお礼の手紙をいただくことが増えるなどの変化もあり、避難者により寄り添った対応ができていると感じています。また、ともに災害対応に取り組んだ男性職員の対応の仕方にも変化が見られるようになりました。

2 女性職員の意見を取り入れ、多様な人々のニーズに合わせた物資を備蓄！

物資の備蓄

- 1 1年に1度、備蓄物資を購入することになっているが、防災部署に**女性職員が配置されたことで、備蓄物資の数や種類が変化した**

こんないいことがあった！
- 2 予算等の都合上、一気に物資を変えることは難しいが、**2～3年の長期的な視点で、多様な人々のニーズに合わせた物資をそろえている**

こんないいことがあった！

全ての物資がそろう前に**大規模災害が発生した場合に備え、協定を結んでいる事業者から購入できるようにしている**
- 3 職員が**自分の家族(子どもや高齢者)をイメージし、災害時に必要なものを考えて提案している**

これがコツ！

部署内では、**どんな職員の意見も、どんなに小さなことでも「やってみよう」と聞き入れるようにしている**

紙おむつ、生理用品、携帯用トイレなど、ノンアルコールのおしりふきなど、これまで**男性職員だけでは気づかなかった物資が備蓄されるようになった！**

女性や子ども、高齢者などの多様なニーズに合わせて備蓄！

備えやすい物資から順に揃えていくなど、**無理をせずにできる**ところから取り組むことが、取組の前進につながる！



気軽に意見を言いやすい！

誰でも意見を言いやすく、活動しやすい雰囲気づくりを大切にしている！



会議の様子 ▶

②女性職員の意見を取り入れ、多様な人のニーズに合わせた物資を備蓄！

<物資の備蓄>

1. 防災部署に女性職員が配置されたことで、備蓄物資の数や種類に変化がありました。これまでも1年に1度、物資を見直して購入することになっていましたが、高齢者のことを考えて食料備蓄におかゆが追加されるなど、以前から備蓄されていた物資に多様な視点が盛り込まれるようになりました。また、例えば紙おむつや生理用品、携帯用トイレ、ノンアルコールのおしりふきなど、これまで男性職員だけでは気づかなかった物資が新たに備蓄されるようになりました。
2. 予算等の都合上、備蓄物資を一気に見直すことは難しいですが、2～3年の時間をかけながら少しずつ揃えています。長期的な視点で、女性や子ども、高齢者など多様な人のニーズに合わせた物資となるよう留意し、全ての物資がそろう前に大規模災害が発生した場合は協定を結んでいる事業者から購入することにしています。備えやすい物資から順に揃えていくなど、無理をせずにできることから取り組むことで、取組の前進につながっています。
3. 備蓄物資の見直しにおいては、職員が自分の家族(子どもや高齢者)をイメージし、災害時に必要なものを考えています。毎年物資を購入する時期に提案し合っていますが、部署内ではどんな職員の意見も、どんなに小さなことでも「やってみよう」と聞き入れるようにしています。小さなきっかけを町の取組につなげるため、誰でも意見を言いやすく、活動しやすい雰囲気づくりを大切にしています。